







干潟のカニの分布

■カニの分布

蒲生干潟全体のカニの分布調査を行った (Fig.1.2)。時間の関係で今回は干潟西側の調査となった。カニの分布は砂や泥など底質によって大きな影響を受ける。震災後、砂質が広がった蒲生干潟ではコメツキガニが分布を広げている。また、震災前はほぼ全域で見られたアシハラガニはヨシが再生しないこともあって分布は狭い範囲に限られている。しかし、震災後設置されたシートの下など、現在の環境を活用して生息する姿を見ることができた。また、泥地に生息するヤマトオサガニは昨年よりも広い範囲に生息することが確認できた。Fig.2の拡大部分は狭い範囲であるが、湿地とヨシが存在し、多くの種類のカニが生息していた。河口域では6月にモクズガニの生息を確認している。(レポート57号参照)



Fig.1 蒲生干潟のカニの分布 1

-  コメツキガニ
-  ケフサイソガニ
-  ヤマトオサガニ
-  アシハラガニ
-  チゴガニ
-  クロベンケイガニ

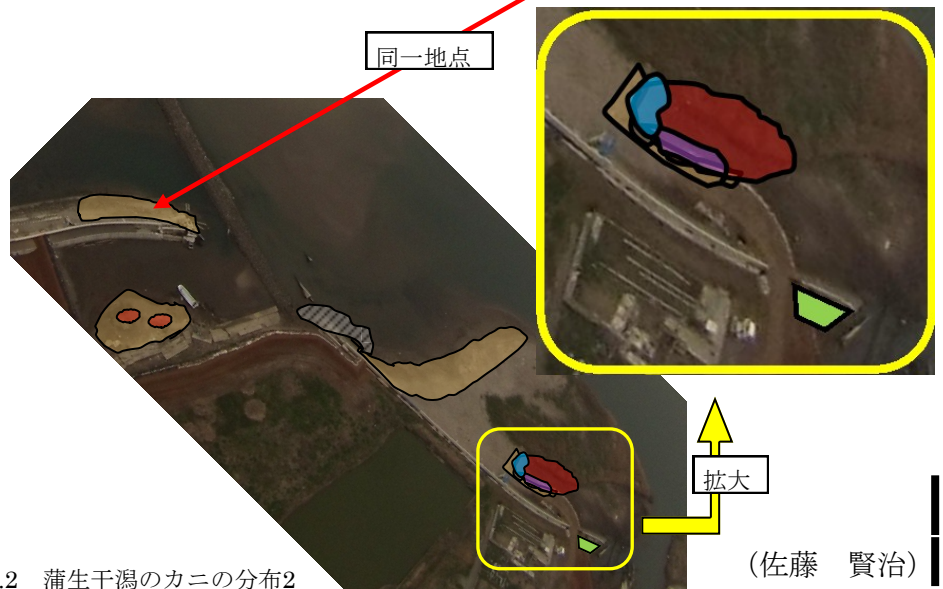


Fig.2 蒲生干潟のカニの分布2

(佐藤 賢治)